基礎研レポート

「ニッポンの結婚適齢期」男女の年齢・徹底解剖（5）

―2018 年婚姻届全件分析（再婚女性＆総括編）―

生活研究部　人口動態シニアリサーチャー　天野　馨南子
(03)3512-1878　amano@nli-research.co.jp

はじめに

本レポートは 2018 年の婚姻届全件を集計した人口動態調査の結果をもとに、男女別、初婚再婚別に結婚適齢期はあるのか、そしてそれぞれに差異があるのか、について分析をおこなった結果を詳説するレポートの第 5 弾、最終回である。最終回では再婚女性について、相手の初婚再婚別に成婚発生年齢を確認し、何が言えるのかについて確認してみたい。

これまでの 4 回のレポートについては、大きな反響をいただいた。

特に、統計的に示される結婚ピーク年齢と、多くの人々が平均初婚年齢を根拠に思い描く結婚適齢期との間には看過しがたい差があり、社会における「過大な晩婚化イメージ」が浮き彫りになったことについては、筆者にとっても重要な発見であった。

第 3 弾で初婚女性の成婚年齢について詳説したが、一般に晩婚化の象徴として知られている「平均初婚年齢」の上昇は、結婚ピーク年齢の上昇というよりも、高齢化によってこれまで成婚が発生していなかったような高年齢層での婚姻によって引き上げられていた。1 件 1 件は統計的には極めて少ない発生頻度での高年齢者の成婚が、60 代以降の男女でも各歳において発生しており、これによって平均結婚年齢が実際の結婚最頻値年齢よりも 3 歳以上押し上げられ、あたかも結婚適齢期が 30 歳近くまで大きく上昇したかのような錯覚を人々にもたらしていることを解説した。

初婚同士の成婚において、初婚男性の成婚ピークは 27 歳、初婚女性の成婚ピークは 26 歳であり、成婚発生時期がそのピーク年齢を挟んだ前後の極めて短期に集中している、という結果は、分析を行った当事者である筆者にとっても衝撃的なデータであった。

レポートの第 4 弾の最後においては、初婚男女の成婚の年齢別発生件数の棒グラフが描き出す成婚ピーク年齢を頂点とした「鋭角の山」が動く可能性はあるのか、についても解説した。初婚の男女で

 | Copyright ©2021 NLI Research Institute All rights reserved

は、ピーク年齢後に成婚件数が急激に減少していく理由が異なることについて、同じ年齢における未婚者割合（ならびに数）の男女の違い（男性の方が圧倒的に多い）や、成婚に向けた活動傾向の男女差から解説した。

最終回の第 5 弾では、再婚女性の結婚年齢の分析結果を解説するとともに、第 1 回から第 5 回までの全組み合わせの結婚適齢期のまとめを最後に掲載することとしたい。

今回もデータソースには、厚生労働省「人口動態調査」に掲載されている、2018 年における婚姻届の集計結果を用いているため、ニッポンの結婚、についての全数分析[1]の結果である。

1――相手の婚歴は初婚:再婚＝4:6

2018 年に役所に婚姻届を提出し、結婚生活を開始した[2]全女性 45 万 6148 人のうち再婚女性は 7 万 3325 人で全体の 16.1%、成婚女性の 6 人に 1 人程度となっている。

そのうち初婚男性との婚姻は 3 万 1312 件で 43%、再婚男性との婚姻は 4 万 2004 件で 57%である（図表 1）。

再婚女性の成婚相手の婚歴状況と比べると、再婚男性は相手の初婚・再婚の割合が、51%・49%（ほぼ 5：5）となっている[3]ことから、女性の方が再婚の場合でも相手の婚歴に関してこだわりが薄い、もしくは男性の方が女性よりも初婚相手を好む傾向があることが示されている[4]。

第 4 弾で解説したように、あくまでも初婚相手がよいといったこだわりを持ってしまうと、成婚ピーク年齢を過ぎた後のパートナー探しはより困難なものとなっていく[5]、ということを再度注意喚起しておきたい。

---

[1] 全数分析＝単純にその年に役所に提出された届のすべてではない。ある条件の下で、集計対象となる届についての分析であるが、提出件数すべてと勘違いしてしまう読者もいるようなので、注意喚起しておきたい。

[2] 国のデータにおいて各歳集計の対象となる婚姻件数は、単に入籍するだけでなく、同年内に生活を共にする、もしくは挙式を行っている、という生活実態も伴っているであろうと思われる成婚のみとなる。ただし、実態を伴ってはいるものの年度をまたいで入籍、挙式の順となったケースなどは欠落する。ただ、全体の規模から考えて適齢期分析に影響する条件とまではいえない。

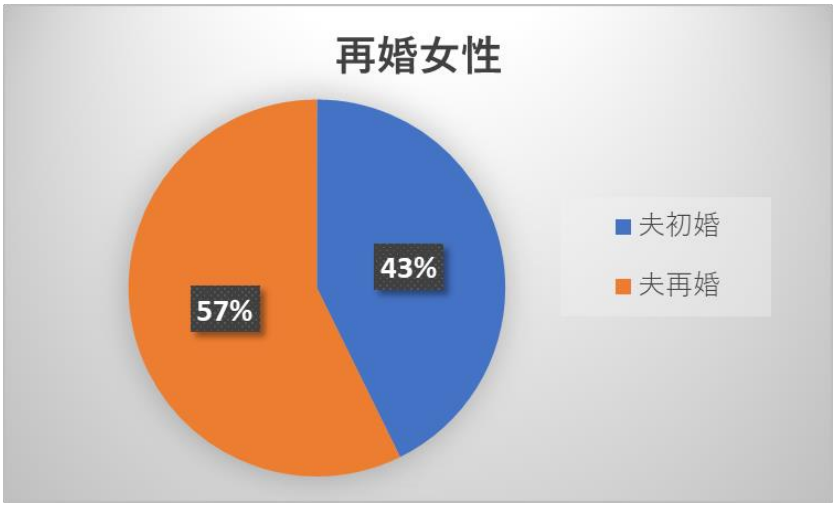
[3] シリーズ第 2 弾参照。

[4] ちなみに初婚男性の相手の婚歴は初婚：再婚＝92%：8%、初婚女性の相手の婚歴は初婚：再婚 89%：11%であり、初婚再婚どちらのケースでも、男性は女性よりも初婚相手を好む傾向がみられる。

[5] 年齢上昇とともに既婚・離別・死別割合が高まるため、相手の初婚ステータスにこだわったまま自らの年齢が上昇することは、より成婚相手探しを困難にする。これは男性がいくつになっても 20 代の女性を好む（未婚者が多い）という傾向／ニッセイ基礎研究所・エウレカ共同調査「日本の未婚化要因分析のためのアンケート調査」（2020 年 8 月）とリンクしているともいえるかもしれない。

 Copyright ©2021 NLI Research Institute All rights reserved

【図表 1】再婚女性の結婚相手の婚歴（%）



資料）厚生労働省「人口動態調査」2018 年より筆者作成

2――再婚女性の初婚男性との成婚ピーク年齢は 33 歳

まずは再婚女性の婚姻の 4 割を占める初婚男性との成婚年齢をみてみたい（図表 2）。

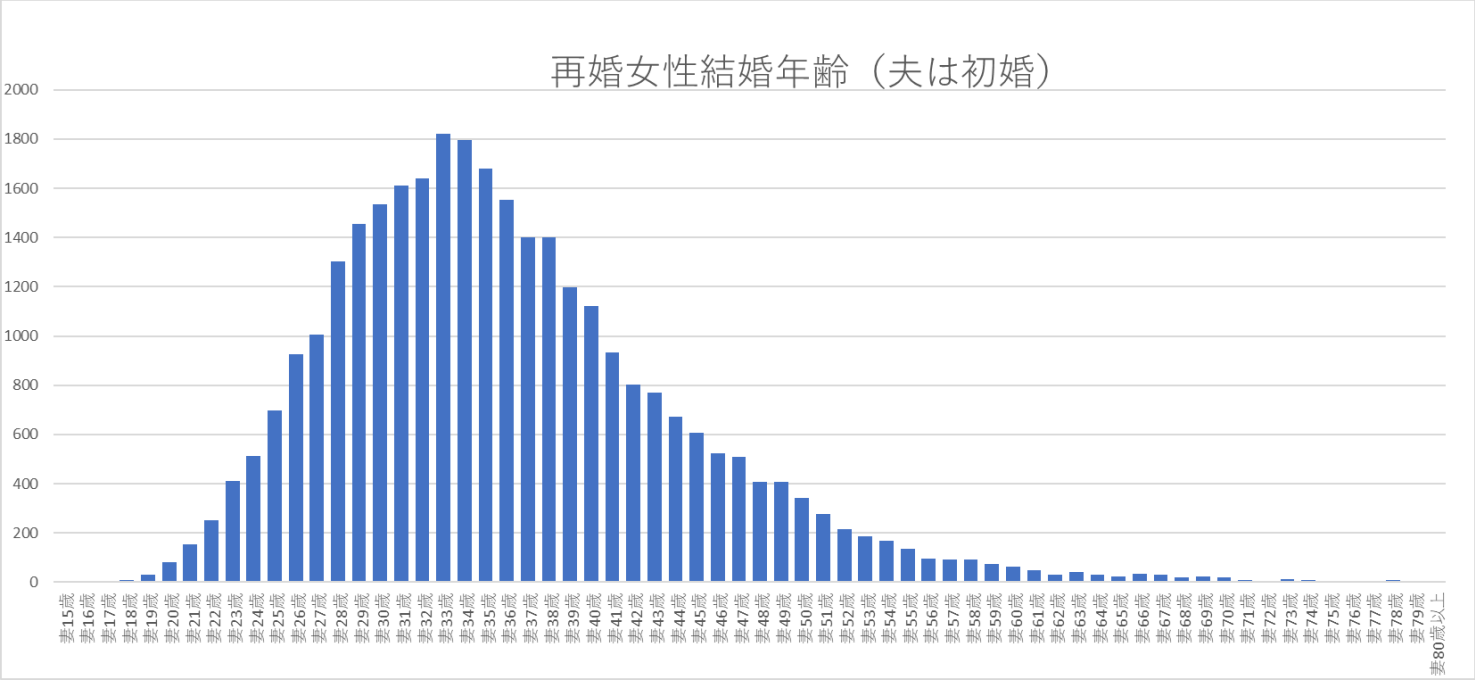
最も件数が多い最頻値は 33 歳の 1820 件であるので、再婚女性の初婚男性との成婚ピークは 33 歳である。初婚女性のピーク年齢の 26 歳と比べると 7 歳上昇している。

また、対象となる婚姻届の 5 割に到達する年齢は 34 歳過ぎとなっており、婚姻届の過半数に到達する年齢を適齢期年齢とするならば、再婚女性の初婚男性との結婚適齢期は 34 歳過ぎ、と言うことができる。

初婚女性と比べると、件数の棒グラフがなだらかな山の形をしており、7 割到達年齢が 39 歳、8 割が 42 歳、9 割が 47 歳という結果となっている。

 Copyright ©2021 NLI Research Institute All rights reserved

【図表 2】再婚女性の結婚年齢／相手が初婚（件）



	件数	累積件数	累積割合		件数	累積件数	累積割合
妻17歳	3	3	0.0%	妻40歳	1,123	23,587	75.3%
妻18歳	8	11	0.0%	妻41歳	933	24,520	78.3%
妻19歳	30	41	0.1%	妻42歳	802	25,322	80.8%
妻20歳	83	124	0.4%	妻43歳	769	26,091	83.3%
妻21歳	152	276	0.9%	妻44歳	673	26,764	85.5%
妻22歳	253	529	1.7%	妻45歳	606	27,370	87.4%
妻23歳	412	941	3.0%	妻46歳	522	27,892	89.1%
妻24歳	511	1,452	4.6%	妻47歳	508	28,400	90.7%
妻25歳	699	2,151	6.9%	妻48歳	407	28,807	92.0%
妻26歳	925	3,076	9.8%	妻49歳	406	29,213	93.3%
妻27歳	1,006	4,082	13.0%	妻50歳	344	29,557	94.4%
妻28歳	1,302	5,384	17.2%	妻51歳	276	29,833	95.2%
妻29歳	1,454	6,838	21.8%	妻52歳	216	30,049	95.9%
妻30歳	1,536	8,374	26.7%	妻53歳	186	30,235	96.5%
妻31歳	1,610	9,984	31.9%	妻54歳	168	30,403	97.1%
妻32歳	1,639	11,623	37.1%	妻55歳	136	30,539	97.5%
妻33歳	1,820	13,443	42.9%	妻56歳	95	30,634	97.8%
妻34歳	1,795	15,238	48.7%	妻57歳	91	30,725	98.1%
妻35歳	1,678	16,916	54.0%	妻58歳	92	30,817	98.4%
妻36歳	1,553	18,469	59.0%	妻59歳	75	30,892	98.6%
妻37歳	1,399	19,868	63.4%	妻60歳	63	30,955	98.8%
妻38歳	1,399	21,267	67.9%	妻61歳	49	31,004	99.0%
妻39歳	1,197	22,464	71.7%	妻62歳	31	31,035	99.1%
妻40歳	1,123	23,587	75.3%	妻63歳	41	31,076	99.2%

資料）厚生労働省「人口動態調査」2018 年より筆者作成　※下の実数表では 63 歳以降はこれまで同様、紙面上省略

 Copyright ©2021 NLI Research Institute All rights reserved

ここで、初婚の女性が初婚男性と成婚する年齢と比べてみたい。

初婚女性の婚姻届が 5 割に到達する年齢は 27 歳である[6]が、同じ 27 歳時に再婚女性の初婚男性との成婚数が年間 1000 件を超え始める（図表 2）。そして初婚女性の初婚男性との成婚が 8 割に到達する年齢が 32 歳であり、再婚女性の成婚ピーク 33 歳となっている、という関係性がみえてくる。

初婚女性の約 8 割が 32 歳までにほぼ初婚男性との結婚をし終えていることから、それ以前（初婚女性の適齢期あたり）から、初婚女性の離婚件数が蓄積し、30 代前半になると、これらの比較的若くして離婚した女性が初婚男性との再婚をし始める、といった状況がデータからは推測できる。

初婚女性と再婚女性の「初婚男性」との成婚年齢データの比較からは、初婚女性は 33 歳以降になると、主に 20 代で離婚した女性が再婚にむけて市場に参入し、これが初婚男性との成婚を従来以上に難しくする要因の 1 つではないかと考えられる[7]。

3――再婚男性との成婚ピーク年齢は 38 歳

次に再婚女性の婚姻の 6 割を占める再婚男性との成婚年齢を確認したい（図表 3）。

再婚男性との成婚ピーク（最頻値）年齢は、38 歳の 1582 件である。婚姻届の過半数に到達する年齢が 41 歳、7 割が 48 歳、8 割が 52 歳であるので、ピーク年齢から急激に成婚数が落ちるというよりも、50 歳あたりまでは緩やかに減少する、という成婚状況となっている。再婚女性が再婚男性との成婚を目指すケースでは、初婚男性との成婚に比べて 8 割到達年齢で 10 年の差（52 歳－42 歳）があり、かなり長い期間のモラトリアムがある、ということが示されている。

また、相手の男性の婚歴別の成婚年齢を比較したグラフを見ると、再婚女性が初婚男性と成婚するケースは、女性の年齢が 30 代前半を中心とした比較的鋭角な山となる一方、再婚男性と成婚するケースは 30 代前半から 50 代前半にかけて緩やかに下がる台形のような形となっている（図表 4）。

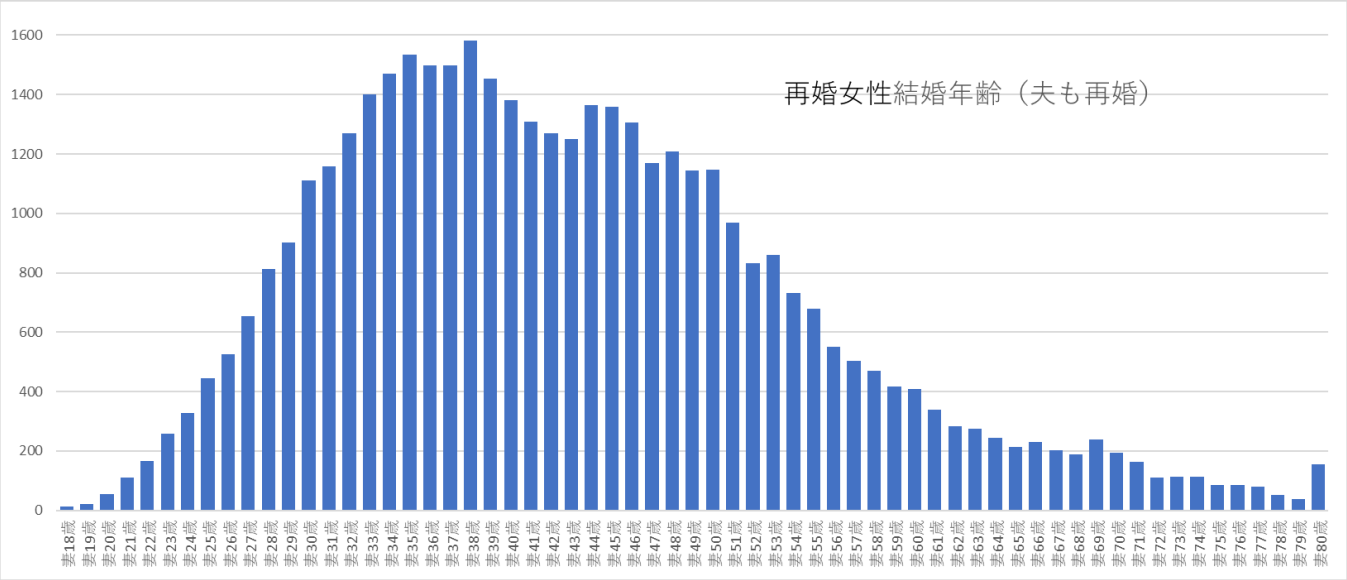
---

6 「ニッポンの結婚適齢期」シリーズ第 2 弾　初婚女性その 1 を参照。

7 結婚支援の現場からは、婚歴のある男女は IT マッチングにおいては条件検索ではじかれ易いことから不利な傾向にあるものの、異性とのコミニューケーションにおいては婚歴のある男女の方が長けている傾向が強いことから、結婚支援イベントなど対面においては、初婚相手への PR 力が初婚男女よりも強い傾向がある、という報告があがっている。

Copyright ©2021 NLI Research Institute All rights reserved

【図表 3】再婚女性の再婚男性との結婚年齢（件）

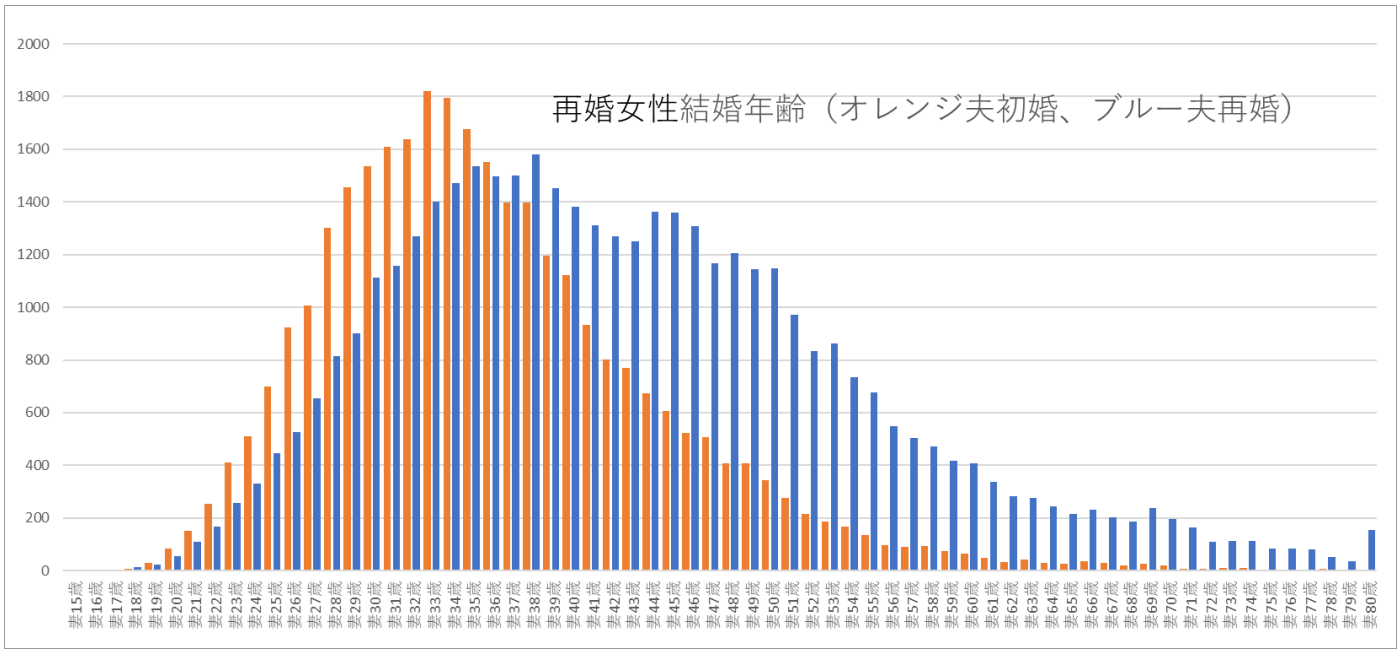


	件数	累計件数	累計割合		件数	累計件数	累計割合
妻18歳	14	14	0.0%	妻41歳	1,310	20,967	49.9%
妻19歳	22	36	0.1%	妻42歳	1,269	22,236	52.9%
妻20歳	56	92	0.2%	妻43歳	1,251	23,487	55.9%
妻21歳	110	202	0.5%	妻44歳	1,364	24,851	59.2%
妻22歳	167	369	0.9%	妻45歳	1,358	26,209	62.4%
妻23歳	258	627	1.5%	妻46歳	1,307	27,516	65.5%
妻24歳	329	956	2.3%	妻47歳	1,168	28,684	68.3%
妻25歳	445	1,401	3.3%	妻48歳	1,207	29,891	71.2%
妻26歳	526	1,927	4.6%	妻49歳	1,144	31,035	73.9%
妻27歳	655	2,582	6.1%	妻50歳	1,147	32,182	76.6%
妻28歳	814	3,396	8.1%	妻51歳	970	33,152	78.9%
妻29歳	902	4,298	10.2%	妻52歳	833	33,985	80.9%
妻30歳	1,112	5,410	12.9%	妻53歳	861	34,846	83.0%
妻31歳	1,157	6,567	15.6%	妻54歳	733	35,579	84.7%
妻32歳	1,270	7,837	18.7%	妻55歳	678	36,257	86.3%
妻33歳	1,402	9,239	22.0%	妻56歳	550	36,807	87.6%
妻34歳	1,470	10,709	25.5%	妻57歳	504	37,311	88.8%
妻35歳	1,535	12,244	29.1%	妻58歳	470	37,781	89.9%
妻36歳	1,498	13,742	32.7%	妻59歳	417	38,198	90.9%
妻37歳	1,499	15,241	36.3%	妻60歳	408	38,606	91.9%
妻38歳	1,582	16,823	40.1%	妻61歳	338	38,944	92.7%
妻39歳	1,453	18,276	43.5%	妻62歳	282	39,226	93.4%
妻40歳	1,381	19,657	46.8%	妻63歳	276	39,502	94.0%

資料）厚生労働省「人口動態調査」2018 年より筆者作成　※下の実数表では 63 歳以降はこれまで同様、紙面上省略

 Copyright ©2021 NLI Research Institute All rights reserved

【図表 4】再婚女性の結婚年齢（夫初婚と夫再婚、件）



資料）厚生労働省「人口動態調査」2018 年より筆者作成

 Copyright ©2021 NLI Research Institute All rights reserved

4――初婚再婚別・男女別の適齢期分析を総括して

これまで 5 回にわたって詳説してきた日本の 2018 年における結婚適齢期の分析結果をまとめたものが以下の図表である（図表 5）。

【図表 5】男女別、初婚再婚別、結婚年齢クロス表（歳）

		最多成婚年齢	その年齢までの婚姻届が何割を占めるか（発生難易度）			
		成婚ピーク	5割（適齢期）	7割（イエローゾーン）	8割（イエローゾーン）	9割（レッドゾーン）
初婚男性	相手が初婚（9割）	27歳	28歳と29歳の間	32歳	34歳と35歳の間	38歳と39歳の間
	相手が再婚（1割）	30歳	34歳	39歳	43歳	48歳と49歳の間
再婚男性	相手が初婚（5割）	35歳	38歳	43歳	46歳	52歳
	相手が再婚（5割）	44歳	45歳	52歳	57歳	65歳
初婚女性	相手が初婚（9割）	26歳	27歳	30歳	32歳	36歳
	相手が再婚（1割）	29歳	32歳	36歳	39歳	43歳
再婚女性	相手が初婚（4割）	33歳	34歳	39歳	42歳	47歳
	相手が再婚（6割）	38歳	41歳	47歳と48歳の間	52歳	58歳

資料）厚生労働省「人口動態調査」2018 年より筆者作成

結婚の 4 組に 3 組を占める初婚同士の結婚をイメージする場合、男性は 27 歳、女性は 26 歳が成婚ピーク年齢であり、婚姻届の 5 割に到達する（いわゆる適齢期）年齢は、男性 28 歳過ぎ、女性 27 歳である。

成婚がピークアウトした成婚発生イエローゾーンともいえる、婚姻届の 7 割ならびに 8 割に到達する年齢は、初婚男性は 32 歳と 34 歳半ば、初婚女性は 30 歳と 32 歳で 2 歳の差でしかない。人口動態調査では初婚夫婦の平均年齢差は 1.7 歳となってしばらくたつが、初婚男女の成婚状況も届け出の 8 割到達まで、ほぼこの 2 歳差で推移している。

昨今の晩婚化のイメージ（平均初婚年齢の上昇でイメージされがちである）は、統計上のピーク年齢との間に 3 歳以上の差があること（結婚しやすい年齢を高くイメージし過ぎる傾向）、そしてここが今回の分析結果において最も重要な点であるが、初婚男女では結婚適齢期に大きな差がない、ということである。

では、なぜ過大な晩婚化のイメージが根強く社会に流布しているのだろうか。

婚姻統計の分析者として 2 点、改めて強調しておきたい。

まず、シリーズ第 3 弾で解説した「平均初婚年齢を根拠とした晩産化イメージの一般認知度の高さの影響」は非常に大きい。

 Copyright ©2021 NLI Research Institute All rights reserved

メディア報道や結婚に関する議論において、晩産化の象徴のように出される数字は決まって「平均初婚年齢の上昇データ」である。これまでのレポートにおける説明の繰り返しになるが、あくまでも平均値であって、実際の成婚件数の発生の分散状況から見た「発生件数の多い時期」と比べると、男女とも 3 歳以上も高く算出されている。

しかし「(平均) 年齢をデータで確認している」という自信を読者に与えてしまいがちであり、高齢化によって 60 代以降 80 歳を過ぎても延々と少数であっても成婚が発生し続けている、という「統計的外れ値の集合体の影響」による平均年齢の 3 歳以上の上昇が全くイメージされていない。

もう一つは、再婚割合の上昇である。

今の団塊ジュニアが生まれた 1971 年から 73 年（現在 40 代後半人口）では、男性の再婚者は 8%、女性の再婚者は 6%であった。両親のどちらかが再婚者である、といった生育歴を持つ人々は非常に少ない。1980 年に成婚したカップルであっても、男女ともに再婚者割合は 10%、1990 年でも男性 13%、女性 11%に過ぎない。しかし、2018 年では男性 20%、女性 17%にまで再婚者の割合が上昇しており[8]、その結果、読者が身近に感じる「肌感覚での結婚」に、実は再婚者を含むカップル（4 組に 1 組）が増えていることが、一般の成婚年齢のイメージをさらに晩婚化させていると思われる。

図表 5 からも、再婚者の結婚適齢期は初婚者に比べ、相手の婚歴問わず 5 ～ 7 歳程度年齢が高くなる。詳細は別のレポートに譲るが、男性の場合、40 代後半以降の成婚は、そのほとんどが再婚者の成婚となっている。

5 回のシリーズを通して読者に訴えたいことは、「若い世代のライフデザインを狂わせかねない誤った結婚年齢への思い込み」をできるだけ早く払拭する必要性がある、ということである。

どんなに高齢化社会となり、また健康増進策が進められても、

「次世代人口が形成されるようなマッチングには、男女ともにマッチング相手に選ばれる年齢を含め、一定のバイオロジカル・リミットがある」ということ[9]を、人口動態の研究者として強く主張してこのシリーズの結語としたい。

---

[8] 2004 年に男性 18%、女性 16%に達した。

[9] フランスにおいては 1990 年代に広く社会に流布した考え方である。日本においては女性のみならず男性もしっかりと婚期とそれに連動した授かり期があることが認識されることによって、マッチング希望が叶う割合が進展することを願いたい。

 Copyright ©2021 NLI Research Institute All rights reserved

【参考文献一覧】

厚生労働省.「人口動態統計」

天野　馨南子.「ニッポンの結婚適齢期」男女の年齢・徹底解剖（1）―2018 年婚姻届全件分析（初婚男性編）―.　ニッセイ基礎研究所「基礎研レポート」2020 年 11 月 16 日

天野　馨南子.「ニッポンの結婚適齢期」男女の年齢・徹底解剖（2）―2018 年婚姻届全件分析（再婚男性編）―.　ニッセイ基礎研究所「基礎研レポート」2020 年 11 月 20 日

天野　馨南子.「ニッポンの結婚適齢期」男女の年齢・徹底解剖（3）―2018 年婚姻届全件分析（初婚女性その 1）―.　ニッセイ基礎研究所「基礎研レポート」2020 年 12 月 7 日

天野　馨南子.「ニッポンの結婚適齢期」男女の年齢・徹底解剖（4）―2018 年婚姻届全件分析（初婚女性その 2）―.　ニッセイ基礎研究所「基礎研レポート」2021 年 1 月 4 日

天野　馨南子.「年の差婚」の希望と現実－未婚化・少子化社会データ検証－データが示す「年の差婚の希望の叶い方.　ニッセイ基礎研究所「研究員の眼」2017 年 2 月 20 日

天野　馨南子. 初婚・再婚別にみた「年の差婚の今」（上）－未婚少子化データ考－　平成ニッポンの夫婦の姿. ニッセイ基礎研究所「基礎研レポート」2018 年 5 月 14 日

天野　馨南子. 初婚・再婚別にみた「年の差婚の今」（下）－未婚少子化データ考－変わり行く 2 人のカタチ. ニッセイ基礎研究所「基礎研レポート」2018 年 5 月 28 日

 Copyright ©2021 NLI Research Institute All rights reserved